

ホーム名：グループホームグローブハウス					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価（2階・3階合体版）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理日誌の裏表紙とスタッフ名札裏、玄関口に掲示し、意識できるようにしている。	理念「心から心へ」が、玄関に提示されている。また、職員の名札や毎月発行送付の“まごころ通信”にも記載されており、家族にもよく伝わっている。	“入居者を人として接する。心が大切”の言葉通り、今後も理念を大切にして実践に繋げていって欲しい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	公民館などのサロン、近隣の喫茶店、小学生との交流など地域と接する機会を多く意識している。	自治会に加入し、地域の商店や飲食店・喫茶店の利用、また散歩での挨拶などを通して近隣との付き合いを大切にしている。浜寺石津小3年生との交流やボランティアの受け入れなど、地域との多くの交流を持つ。	かつて交流があった児童が、高校生になってボランティアとして訪問してくれた事があったとの事。また、放課後交流で児童がホームに遊びに来たり、信太高校の生徒が吹奏楽を披露しに来てくれている。この様な交流を通して若い世代にも認知症の理解が深まっていく事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校と年間通じての交流の中で認知症の人の理解を求める働きを促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3月曜に開催し民生委員、地域包括、家族の方、他施設の管理者に参加いただき意見や助言をサービスに活かしている。	2か月に1度、入居者・家族代表、民生委員、他事業所（グループホーム上野芝）職員、地域包括支援センター職員を構成メンバーとして、1階事務所で開催されている。議事録には現況報告、活動報告、出席者の発言が記載されている。	会議には、より多くの家族の出席を望みたい。日頃取り組んでいる支援の様子や中身、努力している事などを具体的に報告されると家族にも事業所の取り組みがよく伝わるのではないかと。会議を和室で開催する事を提案したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	社協の方とのネットワーク会議や介護保険課関連の方々と連絡とりながらアドバイスいただいている。	区とは日頃から相談しやすい関係にある。入居相談を寄せられる事もある。	介護現場で実際に働く職員の様子や事業所の実情を、区の職員にも見て頂きたいと願う。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関やエレベーター、フロア一扉など一切の施錠はせず、それを含めて身体拘束の意味を理解いただいている。	出入り口は一切施錠せず、自由に行き来出来ている。事故防止の為にセンサーマットを使用している方が数名いる。	過去、入居者が戸外に出てしまった例があったとの事だが、“それは当たり前の事”として受け止め、開かれた環境を維持している事は職員の理解があつての事である。食事中またその他の時間、車いすからの移乗に少しづつでも努力を続けられたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行い虐待防止法の資料をフロア事務所に置きいつでも閲覧できるようにしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>司法書士の方に制度を学びながら対象者がおられたらアドバイスいただいている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、口頭 書面で説明おこない理解の上 サインいただいている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1年に1回家族会を設け 毎月の請求書の中にお便りを同封しご要望をいただいている。入居費用のお支払に來られた際にも口頭でおききしている。</p>	<p>ホームへの来訪時、また毎月送付の便りの中に“意見・要望一言用紙”を付け、意見や要望を尋ねている。現在事業所に対しての要望や苦情は寄せられていない。1階玄関にポスト型の意見箱を設置している。</p>	<p>入居者・家族からの意見や苦情は、事業所の更なる充実へと繋がる。何でも言って貰える関係作りにも今後も努められたい。「家族会」の集いの折には、家族だけの話し合いの場を設け（事業所関係者は席を外す）、家族会全体としての意見や要望を出して貰う、という方法も取り入れてみられた</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回フロアごとに会議を行い、個別には年2回ヒヤリングし意見や提案をきき反映できるようにしている。</p>	<p>会議や個別面接で職員から意見や提案を聞く機会を持つ。管理者は職員を信頼しており、また職員は良いと思った事は他の職員と話し合いの上で自主的に支援に繋げている。</p>	<p>職員の思いや希望など、会議や面談時に何でも言い合える環境作りを今後も大切にしていきたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回役員会議で勤務実態や職員の現状の報告行い、評価するべき点は報酬などで加味し向上心を持てるように工夫している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に内外の研修や勉強会の機会を作りスキルアップできるよう進めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>西区高齢者関係会議のメンバーとして参加しグループホーム連絡会には月1回の開催で研修や勉強会などで質の向上はかっている。</p>		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族など関係する方々からの情報を活かしご本人との会話の中で不安点など聞きだすように工夫している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学時や契約時に家族の方から情報収集し要望をきけるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>優先順位を見極めまず何が必要かを把握できるようにしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>残存能力を活かし職員と一緒にできることは行い役割をもった日常生活を過ごしてもらうよう支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や月1回のお支払の際にお話しをきき意向を反映させている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの喫茶店や入居前に住まわれていた周辺など定期的に散策し関係性を途切れないようにしている。</p>	<p>したい事や行きたい所など、本人の思いを当たり前の事と認識し支援している。生まれ育った自宅への里帰り、毎月の墓参、過去には熊本や徳島へも日帰り同行した。日頃は馴染みの喫茶店や商店の利用がある。</p>	<p>遠方への訪問は、入居者の思いを汲み取り、全職員でその思いを共有・協力して実現に至る。人や場所との関係だけでなく、続けてきた事や好きな事、折り紙や書道等も今後ずっと続けられるよう、引き続きの支援を願う。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>座る場所なども考慮し利用者同士が関わられるよう配慮している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない仕組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても継続的に支援できる体制はとっている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から意向や思いをくみ取るようにしている。	心おきなく話せる環境を大切に して、日常の会話の中から本人の思いや希望を汲み取るよう努めている。	入居者に対しての職員担当制を活かし、より深い関係で今後も本人の思いを把握する事に努められたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族やケアマネからの情報を元に本人と接しどのようなサービスがよいのかを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の日勤帯メンバーでのミーティングで一日の予定を確認し入居者の意向も再確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人に対し、スタッフ一人が担当しケアマネを交え月1回モニタリング行ない介護計画を見直ししている。	楽しみ、生きがい、役割り、自分で生活し楽しむ等を盛り込み、その人らしさ、個性が出るような介護計画の作成を心掛けている。本人、家族、職員、かかりつけ医、看護師各々と話し合う場を設け、プランに活かしている。	毎月行われる介護計画の見直しの中では、各目標に対して○△×で評価がなされ、次のケアプランに結び付けている。今後も夢を叶えるプラン、楽しみ事のプランを沢山盛り込み、張り合いや楽しみ、充実感に繋げていって欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常は個別経過記録に記載し提案などは申し送り帳などで共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険からの訪問施術なども取り入れあらゆるサービスの提供を心掛けている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティア参加、公民館でのいきいきサロン、公営の競艇なども楽しみに入れ支援おこなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は隔週、歯科は毎週、往診があり健康チェックをおこなっている。	入居時に主治医の説明があり、現在全員が柳田内科となっている。内科、歯科とも全員が往診を受けている。その他、鍼灸の往診を希望者が受けている。看護師同席の下、入居者の健康状態が診断結果として医療連携ノートに記録され職員に共有されている。	内科以外では入居者の家族と看護師で外来受診できるように支援されている。今後もかかりつけ医、かかりつけ薬局等と連携しながら適切な医療支援がなされるよう願う。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム職員看護師として週3回勤務している。医療ノートを通じて看護と介護の申し送りを行い情報の共有をおこなっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>近隣の医療関係者とも日常から連携し情報収集に努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に看取りの指針、意向の確認をおこない入居後も定期的に確認しながらチームとしての方針を共有している。</p>	<p>入居の時点で事業所が作成した「看取りに関する指針」についての説明がなされており本人や家族の同意を得られている。過去3名をホームで見送り、現在も数名の方がホームでの看取りを希望されている。今後看取りの勉強会も予定されている。</p>	<p>ホームで共に過ごした入居者の希望に叶うよう、方針を共有しながら支援に取り組まれない。ホームで看取り支援がなされた場合など、運営推進会議や家族会で支援の取り組みや様子を報告する事は、他の家族にも安心を与えられる事と思う。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職者は順に心肺蘇生法など救命講習（AED）を受講している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年2月に浜寺4校区合同の津波避難訓練を地域で実施し初めての試みだったが協力体制の第1歩を踏み出している。</p>	<p>直近の訓練（平成27年12月9日）では、消防との協働で夜間の出火を想定した避難訓練が実施された。また、初の試みとして今年2月28日、浜寺4校区合同で津波避難訓練が実施された。各フロアで飲料水・缶詰・缶詰パン等、5日分程災害時備蓄品として確保されている。</p>	<p>地域住民との連携でより一層の参加を求められ、地域一体の協力体制をめざして頂きたい。1階デイサービスが休みの日の事も踏まえ、急な災害に対しての意識を全職員が高め、落ち着いて避難誘導が出来る様訓練を重ねられたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の方に合わせた言葉かけをおこないプライバシーの配慮し対応おこなっている。</p>	<p>入居者の名前の呼び方については一人ひとりの人格や誇りを損ねないという配慮のもとその人なりの個性と感性に合った言い方をしている。</p>	<p>職員と入居者が対話する時はこれからも笑顔や優しい言葉で話されて入居者本位の姿勢を保っていかれたい。どの入居者にも公平に、言葉かけ等にも注意を払われたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常の何気ない会話から意向や思いをくみ取るようにし自己決定できる方には促し行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者優先の介護をケアプランで作成し定期的に会議時などで確認している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>御本人の意向に沿えるようお買い物も一緒に行き服も選んでいただき好みを把握できるようにしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と職員と一緒に準備し盛り付け、味付け、洗物など支援している。</p>	<p>昼食の主食はデイの厨房で作られ、副食及び朝食・夕食は各フロアでメニューが作成され調理されている。調理、盛り付け、配膳、食器洗いなど入居者の手伝いがある。食事の前には入居者の代表が職員と共に嚥下体操を唱和誘導し、後に続く入居者の声も元気ハツラツであった。</p>	<p>入居者の食前後の関わりは生活意欲向上に繋がる。入居者と職員、共にテーブルに着いての食事は和やかな家庭的雰囲気であった。個別での外食支援も食の楽しみとして継続されたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量はチェック表を元に確認し看護師と相談しながら調整している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自立の方には声掛けその他の方には介助にて毎食後口腔ケアおこない週1回の歯科往診の際にも口腔内確認いただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>表を作成しトイレ誘導などの時間やタイミングを見計らい失禁を減らす支援をおこなっている。</p>	<p>排泄の自立に向け腹筋運動や骨盤底筋運動などを取り入れながら支援をしている。職員は排泄チェック表を見ながらさりげないトイレ誘導をしている。動作の中でのサインを見逃さないように注意している。</p>	<p>現状として自立している人は7名ほどおられる。またトイレの場所がわからない人も数名おられる。運動を継続し、自立に向けた支援、失禁を減らす支援に今後も努力されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>薬に頼らず、食生活、水分の工夫で便秘にならないよう対策おこなっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者の方と確認しながら準備の段階から一緒におこない確認しながら入浴おこなっている。必要あればデイサービスの機械浴も活用している。</p>	<p>入居者の希望に合わせた週に2～3回の入浴が実施されている。1階のデイには機械浴の設備があり現在1名の利用がある。湯の入れ換えもその都度行なわれ清潔さは維持されている。</p>	<p>入浴を楽しんでもらう為に菖蒲湯やゆず湯などのサービスもある。1対1で接する事が出来る貴重な時間を有効に使い、身体の変化を見逃さないよう注意を払いながら会話を楽しみ入浴支援を続けられたい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間眠れない方にはお茶など飲用いただきながら不安な点を傾聴し安心していただくまで支援するようにしている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬処方せんを医療ノートにファイルし疑問点があれば看護師に確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の生活歴を元に環境を変えずご本人のできるごとの役割をもっていただき支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の散歩はもちろんのこと個別に外出できるよう計画し実行に移している。</p>	<p>事業所の外出支援の取り組みは活発である。初詣、梅林見物、花見、競艇見物、墓参、神社参拝などが実施されている。事業所には送迎車もあり家族と一緒に外出できる体制にある。</p>	<p>本人と家族の要望があれば宿泊を含めた外出も実施されている。今後も季節を楽しむ外出や個別の外出支援の継続に努められたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理できる方や持参していないと不安になる方は所持いただきお買い物時は付き添い、金銭のやりとりが可能なように支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>スタッフがパイプ役となりやりとりがスムーズにできるよう支援している。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用フロア内にはカレンダーや展示物、写真など掲示し、電車や車の往来が近くであるも気にならない騒音になっている。</p>	<p>明るくて広い共用空間が心地よく感じられた。壁には書道作品や写真、手作りの大きなカレンダーなどが掲示され観葉植物も置かれている。不快を招くような刺激は無く、潤いある空間が演出されている。夜勤帯に水モップで掃除が行われる他、入居者と職員が一緒になって清掃を行い清潔の維持がなされている。</p>	<p>和室の有効利用を職員の皆さんと共にアイデアを絞りたい。場所場所への温度計・湿度計の設置で、目に見える環境管理、健康管理も願いたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子や机の配置も考慮し気のあった方同士で過ごせることができるよう工夫している。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>私物を持ちこんでもらい入居前と変わらない環境で過ごしてもらえるようにしている。</p>	<p>各居室にはエアコンと洗面台が備え付けられている。それぞれの好みに合った品物が持ち込まれ自分だけの部屋作りが出来ている。布団はベランダでの天日干し、シーツの交換はチェック表にて定期的にと衛生にも気が配られている。</p>	<p>要る物、要らない物、プラスする物、と入れ換える事の積み重ねで、現在は各々びったりの環境になっているとの事。今後もその時々合わせた環境作りで、居心地のよい居室作りをお願いしたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室の表示をしセンサーなどで見守り確認できるようにし安全の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない